

ほ乳類

1	シベリアイタチ(チョウセンイタチ)	被害甚大種	10	ハツカネズミ	被害危惧種
2	ハクビシン	被害甚大種	11	イノブタ	被害危惧種
3	アライグマ	被害甚大種	12	アナウサギ	被害危惧種
4	ノイヌ	被害甚大種	13	シマリス	準被害危惧種
5	ノネコ	被害甚大種	14	タイリクモモンガ	要注目種
6	ドブネズミ	被害甚大種	15	マンシュウハリネズミ	要注目種
7	クマネズミ	被害甚大種	16	ナミハリネズミ	要注目種
8	ヌートリア	被害甚大種	17	シカ亜科	要注目種
9	クリハラリス	被害甚大種			

分類群	ほ乳類
1. 京都府内の外来生物の特徴	<p>外来哺乳類の特徴としては、ペットや展示動物等として意図的に導入された種が圧倒的に多いことが特徴である。また、生態系の上位種であるために影響が大きいのも特徴となっている。したがって対策の優先度は高く他の分類群に比較して外来生物法による特定外来生物に指定されている種が他の分類群に比較して圧倒的に多い。対策としては飼養している種の管理が非常に重要である。しかし、ネコやイヌ等のようにペットとして大事にされているので飼養下にある動物と野生動物の識別が困難なために多くの課題が生じている。また、管理において鳥獣保護管理法の適用も受けているために、同法の有害鳥獣駆除で管理がなされる場合が多い。しかし、鳥獣法の管理は被害防止が目的であり被害が減少すると継続されないが外来生物法では根絶が目的なので対策としての有効性は高い。外来哺乳類の管理においてはこれらをうまく使い分けることが重要である。</p>
2. 基準選定の考え方	<p>生態系での上位種が多いために影響が他の分類群に比較して大きいので、その点は考慮。またペット等意図的導入と飼養動物が多い点も考慮。</p>
3. タイプ変更・新規追加種について	<p>新規追加種は無いがクマネズミのランクは被害危惧種から被害甚大種に変更。これは近年離島における本種の悪影響が顕在化しているためである。また、冠島のオオミズナギドリの卵や幼鳥への悪影響も考慮。</p>
4. 対策	<p>意図的導入が多く、多くの種が飼養下にあるので飼養下での管理が重要で野外に逸出させないことが肝要である。また逸出して場合には速やかに対策を取ることが重要である。ヌートリアのように毛皮の目的で導入したが、うまくいかず野外に放逐され野生化した種も多い。人になれやすい種が多いので野外の人の餌付け等によりペット化しやすく根絶の合意が取りにくいのも問題である。</p>
5. 備考	

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シベリアイタチ(チョウセンイタチ)	学名	<i>Mustela sibirica</i>	目科名	食肉目イタチ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	中国・朝鮮？
	導入・侵入年代	1949年頃	導入・侵入原因	放獣？		
②分布範囲	全国	中部地方以南で近畿・中国・四国・九州およびその属島の一部				
	府内	市街地やその周辺、河川敷など主に平野部に生息				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input checked="" type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	食性などはイタチと同様であるが大型であり行動圏も大きい。本種の侵入した場所ではイタチが消失する場合が多く競争的置換が起きている可能性が高い。京都市内のスーパーなどに侵入して被害を起しているのはほとんど本種によるものである。					
⑤近似種との見分方	イタチよりかなり大型で尾率が高い。毛も荒く慣れるとイタチとの識別は可能であるが正確には頭骨や遺伝子を調べる必要がある。					
⑥被害状況	人家への侵入やスーパーなどへの侵入とソーセージなどの食べ荒らしなどによる被害。イタチへの影響など。昆虫類や両生類、小型哺乳類など多様な動物を補食するので、島嶼では生態系を変化させるほど影響がある。平野部のイタチは本種による影響で減少している。					
⑦必要な防除対策	人への被害防除は、被害場所でのワナによる駆除が主。イタチへの影響阻止も本種のワナによる駆除が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハクビシン	学名	<i>Paguma larvata</i>	目科名	食肉目ジャコウネコ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	中国・台湾？
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	ほぼ全国（西日本の一部を除く）				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ミカン、カキなど果実食が中心であるが、トウモロコシなど農作物も食害、他に肉食の報告あり。手足が器用で木に登ることができるとともに電線を伝って移動ができる。					
⑤近似種との見分方	白鼻唇の名前のように額下部から唇に書けて中央に白い帯を持つことや尾が長く先端が白いなどの特徴で他種との識別は容易					
⑥被害状況	果樹園やだけでなく、庭先のミカンやカキなどに食害を与える。又人家侵入も行う。生態系被害に関しては、在来のタヌキやキツネなどへの影響が懸念されているが検証された例はタヌキの子供を食害した報告以外はない。					
⑦必要な防除対策	被害に対しては有害鳥獣駆除によるワナ掛けにより捕獲は可能。近年多くの府県で農業被害が報告されているが、対策は静岡県等一部の府県のみで行われているだけである。					
⑧改訂の理由	分布や被害が拡大					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 村上興正



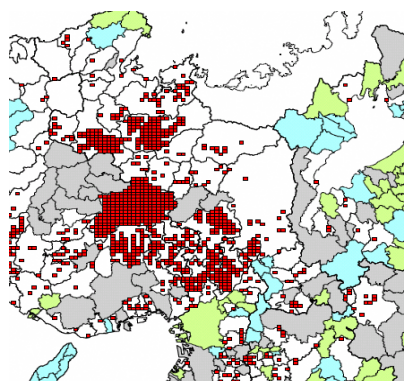
© 栃木県庁（栃木県撮影）

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アライグマ	学名	<i>Procyon lotor</i>	目科名	食肉目アライグマ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	北米
	導入・侵入年代	1960年代	導入・侵入原因	テレビアニメの影響でペット飼育急増		
②分布範囲	全国	全都道府県に分布				
	府内	丹波地域の一部を除き全域に分布				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、■人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、□植生への影響、□競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 ■在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、□希少種・固有種への影響 [性質特性] □定着性が高い、□環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、□拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、■被害が大きい、□特殊性、□回復困難性					
④生態的特性	森林、湿地帯、都市部まで幅広く生息が可能、雑食性で小型哺乳類、鳥類とその卵、両生爬虫類、昆虫、果実、野菜、穀類など食性は幅広い。手先が器用で木登りもできる。樹洞も利用するが人家や社寺にも侵入して繁殖する。学習能力は高く適応力に富んでいる。近年、京都市では社寺仏閣への侵入や被害が多い。					
⑤近似種との見分方	尾がふさふさしていて縞模様があること、目の回りに黒いマスク模様があることなどでタヌキやアナグマと識別できる。					
⑥被害状況	スイカ、トウモロコシ、ブドウなど農作物や果実、さらに養魚場の魚への加害など農林水産業への被害だけでなく、湿地の両生類や爬虫類など、さらには鳥類の卵も捕食、オオタカの巣へ侵入した場合もあるなど生態系にも影響が大きい。又近年アライグマ回虫症など感染症を媒介することが知られている。					
⑦必要な防除対策	分布個体数など現状把握を行い計画的な駆除を行わないと、適当な駆除では繁殖力が高いので返って個体数を増大させる結果にすらなる。京都府では、平成21年度から南丹・中丹地域を中心に、アライグマ防除京都広域協議会が設立され、現在地域も拡大しつつ防除に取り組んでいる。捕獲数は平成21年度をピークとして減少傾向にあるが、被害は依然として継続しておりさらなる取り組みが必要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 村上興正

分布図



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノイヌ	学名	<i>Canis familiaris</i>	目科名	食肉目イヌ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	ペット		
②分布範囲	全国	すべての都道府県				
	府内	すべて				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	通常は中型犬以上の個体が野生化しており、遺棄猟犬なども繁殖して生じたため、人をあまりおそれず狩猟能力は高いので、シカなど大型哺乳類でさえ餌となることもあり得る。					
⑤近似種との見分方	野良犬との識別は困難で人が飼養している飼い犬との識別が問題となる。飼い犬の登録は未だ悪く飼い犬の個体登録が前提となる。マイクロチップの埋め込みにより識別可能となるが未だにこれに対して飼養者からの理解が得られていないのが現状である。					
⑥被害状況	毎年ノイヌによる咬傷など被害は約1万件生じているが生態系被害の実態は調査されていない。奈良公園のシカは野犬により毎年死傷している。					
⑦必要な防除対策	定期的な野犬狩りを行うことが必要で狂犬病予防法に基づき毎年行われている。近年河川敷の野宿者が餌付けしている野犬が問題となっている。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ノネコ	学名	<i>Felis catus</i>	目科名	食肉目ネコ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	ペット		
②分布範囲	全国	全国				
	府内	全域				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input checked="" type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	イヌと異なり直接的な人への危害は比較的少ないが、ネコは地上から樹上まで狩りが特異で小型哺乳類から鳥類、魚類まで多様な生物を捕食する。生態系への影響は極めて大きい、被害の実態は沖縄、奄美大島など一部地域を除いては判っていない。					
⑤近似種との見分方	家猫に関しては首輪などを付ける習慣が乏しいので外見上は家猫と野良猫とノネコの区別はかなり困難な場合が多い。中途半端な餌付け個体が問題を起しているケースが多い。					
⑥被害状況	鳴き声などの苦情が生じやすいが飼い猫によるものか否か判定が困難。飼い猫のエイズウイルスが野良猫に伝搬する可能性や逆に野良猫の病気が家猫に伝搬する可能性もある。沖縄や奄美大島では希少在来種がネコの食害を受けていることが報告されている。またジャワマングース駆除のためのワナに多数のネコがかかり、問題となっている。					
⑦必要な防除対策	被害に対してはワナによる捕獲が行われている。また猫条例の設置により管理を強化している地域がある。絶滅のおそれのある種に対して影響がある場所、沖縄、奄美大島、小笠原などではネコの駆除が行われ、捕獲されたネコは里親制度として一部他地域でペットとして飼育されている。ネコによる生態系被害については人々の啓蒙が必要である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ドブネズミ	学名	<i>Rattus norvegicus</i>	目科名	嚙歯目ネズミ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	非意図的導入		
②分布範囲	全国	人の生活圏に分布				
	府内	人の生活圏に分布、地下街や鶏舎など				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	登ることは不得意で下水や地下街には適応。家ネズミの間では最大で雑食性であるが肉食が主な種である。ドブガイ、オオミズナギドリなども摂食した報告もある。					
⑤近似種との見分方	クマネズミに似るが耳が短く尾も短い、毛色は茶色で毛が荒い。					
⑥被害状況	人家に侵入して繁殖するし合所などの食物を食べ荒らす。その他ドブガイやオオミズナギドリの雛や卵を食害する。またノミやシラミ類を伝搬するだけでなく、ワイル病やラッサ熱など数多くの病原菌を媒介する。					
⑦必要な防除対策	殺鼠剤による防除は容易。ワナでも捕獲できるがシラミなど多く持っているので注意が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クマネズミ	学名	<i>Rattus rattus</i>	目科名	嚙歯目ネズミ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	非意図的導入		
②分布範囲	全国	人家周辺と鶏舎など				
	府内	同上、京都市動物園などにも多い				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	ドブネズミに類似するが木登りが得意で家の天井裏はほとんど本種。雑食であるが動物物はドブネズミより少ない。学習能力はドブネズミより高く防除はそれだけ困難。					
⑤近似種との見分方	同属のドブネズミより体色は黒く尾は長く耳も大きい。他のクマネズミ属以外との識別は後足長が大きいので容易。					
⑥被害状況	登るのが特異なので人家侵入やビルへの侵入など活動可能範囲は大きい。小笠原では本種によるアナドリなど鳥への食害も報告されている。また、カンタンなど果樹へも被害が知られている。					
⑦必要な防除対策	ドブネズミよりワルファリン抵抗性が数十倍も高く殺鼠剤が効きにくい上、用心深い。一般の人ではワナによる捕獲は非常に困難。屋内では粘着紙などの利用による防除は有効性が高いが設置場所の選択が問題となる。					
⑧改訂の理由	離島での生態系影響が大きく、京都府では冠島のオオミズナギドリへの捕食が起きている。					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ヌートリア	学名	<i>Myocastor coypus</i>	目科名	嚙歯目ネズミ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	南米
	導入・侵入年代	1939-45	導入・侵入原因	毛皮生産のための意図的導入		
②分布範囲	全国	主に岐阜県以西の西日本と四国				
	府内	淀川水系とそれに連続したため池				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、□人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、■植生への影響、□競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 □在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、□被害が大きい、□特殊性、□回復困難性					
④生態的特性	水辺に巣穴を作り繁殖する。水から100m離れることは稀でイヌなど他動物に襲われると直ちに水の中へ逃げ込む。泳ぎは得意であるが地上での行動はにぶい。草食と言われていたがドブガイなど淡水産二枚貝を多量に食害していることが報告されておりタナゴ類への影響が懸念されている。					
⑤近似種との見分方	日本では類似種はおらず、ネズミの仲間としては最大サイズで間違えることはないが、知らない人はイタチやカウソウと報告することがある。					
⑥被害状況	イネやほうれん草など農作物が水辺にあると被害はかなり生じる。また大食漢でマコモやヨシのタケノコ、ホテイアオイなどを大量に食べる。また、ドブガイなど淡水産二枚貝を多量に食害していることが報告されておりタナゴ類への影響が懸念されている。全国で有害鳥獣駆除で毎年約1000頭は駆除されている。					
⑦必要な防除対策	ニンジンなどを餌としてワナによる捕獲は容易。イギリスでは本種を根絶したが最初は毒餌によって大量に殺したが日本では実施は困難。産仔数が多く繁殖力が高く人慣れしやすいので、餌付けしないことが肝要。水域全体を視野に入れた防除が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	■IUCNワースト100、■日本生態学会ワースト100、■特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 村上興正



(C)近藤高貴



奈良大学文学研究科安藤誠也撮影

(C)安藤誠也

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	クリハラリス	学名	<i>Callosciurus erythraeus</i>	目科名	嚙歯目リス科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	台湾
	導入・侵入年代	1935年	導入・侵入原因	飼育個体の逃亡		
②分布範囲	全国	東京、神奈川、静岡、浜松、岐阜、大阪城、和歌山県友ヶ島、和歌山城公園、長崎、杵岐など				
	府内	京田辺市				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	樹上性は強いが移動時などには地面も利用。樹木の種子や花、樹皮、葉などを食べるだけでなく昆虫など小動物も食べる。木の枝を利用して巣を作り繁殖を行う。単独で動くより群れで採食などを行うことが多い。					
⑤近似種との見分方	ニホンリスは腹が白いのに対して本種は灰褐色なので簡単に識別できる。また本種はサイズも大きく背面は黒と黄土色の霜降りとなっている。					
⑥被害状況	樹皮剥ぎを行い林業被害を起こす。また人家の戸袋や柱なども食害するし、電線を齧るなどの被害を与える。					
⑦必要な防除対策	本種の増殖力は高く、捕獲圧をかなり高めないと防除にはならない。ワナによる捕獲は容易であるがワナ慣れすると捕獲は困難となる個体がいる。樹上なので毒餌の配置などを考慮すると毒餌の利用も可能と考えられる。50年以上前から定着しているが、現在でも分布は限定的であり、根絶は可能と考えられる。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 村上興正



(C)井上壽

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハツカネズミ	学名	<i>Mus musculus</i>	目科名	嚙齧目ネズミ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	不明
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	非意図的導入		
②分布範囲	全国	人家周辺と農耕地や河川敷など				
	府内	同上				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	家ネズミでは最小であるがその分狭い場所で巣を作り繁殖するのでやっかい。登坂能力はある程度もっているがクマネズミほどではない。雑食性で野外ではエノコログサの実などもよく食べる。					
⑤近似種との見分方	野外ではカヤネズミとよく似ているが本種は上顎門歯が斜めに一直線にならず階段状になっているので識別可能。屋内では後足長が極めて小さいのでクマネズミ属の子供との識別は容易。					
⑥被害状況	室内などに平気で出現することが多い。巣を作るために衣類などを噛み砕いたり、食物を取ったりする。野外では農作物に被害を与えることもある。生態系への被害はほとんど報告されていない。					
⑦必要な防除対策	屋内では折りたたみ式のゴキブリ捕獲器によくかかる。粘着紙にもよくかかるし、殺鼠剤も有効。沖縄のサトウキビ畑では本種の密度が高い地域があるが通常野外の密度はかなり低く、被害が顕在化することは少ない。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	イノブタ	学名	<i>Sus scrofa</i>	目科名	偶蹄目イノシシ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	-
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	イノシシの飼育個体の逸出		
②分布範囲	全国	本州、九州、四国のほぼ全域				
	府内	南丹市（旧美山町）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	イノシシとほぼ同様で山林とそれに隣接する農地などに生息。雑食性で繁殖力は旺盛。イノシシより人慣れしており、知能は高いと言われているが不明。イノブタの方が飼育が容易でおいしいと言うことでイノブタ飼育場が増加し、ここからの逸出個体が野生化して定着。					
⑤近似種との見分方	形態的には困難で遺伝子解析によって可能。しかし、交雑が進んだ個体では困難な場合が多い。					
⑥被害状況	農作物被害が中心だが近年は竹林のタケノコ被害が大きい。その他山道を掘り返すので道路崩壊を起こしていることもある。人への直接的危害は猟師以外はまれ。全国的には本種による獣害が最大である。京都では市場価値が高く捕獲努力も大きいのでそれほどは顕在化していない。					
⑦必要な防除対策	被害がこれ以上進めば特定計画による保護と管理が必要であるが、問題は個体数の推定法が確立しておらず、行動圏も大きいので科学的な目標設定や管理がかなり困難な点にある。近年は銃猟よりワナ猟の方が増加しつつある。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	アナウサギ	学名	<i>Oryctolagus cuniculus</i>	目科名	兎目ウサギ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Bb	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Bb	原産地	飼育個体の逸出
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	飼育個体の逸出		
②分布範囲	全国	カイウサギの野生化個体が渡島、松島小島、地内島、松島、七つ島大島、沖の島などに分布				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	森林や草原に棲み穴を掘って集団で生活。植食性で多種の枝や葉などを食べる。繁殖力は高く島などでは大増殖したケースも多い。					
⑤近似種との見分方	ニホンノウサギより後足長が短い。飼育個体は白が多いが野生化個体は褐色が多くニホンノウサギに類似。遺伝子解析による識別は可能。					
⑥被害状況	人への直接的危害は無いが植生への影響は大きく、植生がなくなり土壌流出したケースもある。またウイルス性出血病を野生のウサギに伝搬する可能性が指摘されている。					
⑦必要な防除対策	生息実態が不明で現状調査が必要。ワナや銃で捕獲は可能であるが飼育個体の遺棄や逸出に注意が必要。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シマリス	学名	<i>Tamias sibiricus</i>	目科名	嚙歯目リス科
	カテゴリー (2019)	準被害危惧種	タイプ (2019)	Cb	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	準被害危惧種	タイプ (2005)	Cb	原産地	ユーラシア大陸北部
	導入・侵入年代	1980年代	導入・侵入原因	ペットの逸出		
②分布範囲	全国	北海道のエゾシマリスは在来種、長野県などで野生化				
	府内	京都市の大文字山で捕獲記録があるのが唯一の実証的資料				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	昼行性で樹木や草の種子、昆虫、陸貝、小鳥の卵などを食べる。繁殖は地下巣で行われる。					
⑤近似種との見分方	背中などに明瞭な縞模様があるので識別は容易。ただし、大陸産シマリスもペットとして飼育されているので種の同定には捕獲による確認が必要。					
⑥被害状況	不明					
⑦必要な防除対策	ペットの逸出個体なので発見したら早急な駆除が必要。その後大文字山では目撃や捕獲はされておらず定着しているかどうか不明である。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	タイリクモモンガ	学名	<i>Pteromys volans</i>	目科名	嚙歯目リス科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ad	国リスト カテゴリー	その他の定着 予防外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ad	原産地	ユーラシア北部
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	飼育個体の逸出		
②分布範囲	全国	北海道				
	府内	-				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input checked="" type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	平地から山地の森林に生息。夜行性で樹上生活を行い飛膜を使って滑空する。樹洞を使うほか樹上にも枝を用いて巣を作る。植食性で花・葉・枝・種子などを食べる。					
⑤近似種との見分方	本種は乳頭が4対なのに対してニホンモモンガは5対あるので区別が可能。					
⑥被害状況	北海道に生息するエソモモンガと遺伝的な交雑を起こすおそれが高い。又ニホンモモンガと競合関係になる可能性も高い。					
⑦必要な防除対策	飼育個体の管理の徹底による野外への逸出防止。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	マンシュウハリネズミ	学名	<i>Erinaceus amurensis</i>	目科名	食肉目ハリネズミ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ad	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	要注目種	タイプ(2005)	Ad	原産地	中国とその周辺
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	飼育個体の遺棄や逸出		
②分布範囲	全国	静岡県、神奈川県、東京など				
	府内	定着は確認されていない				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	鳥類の雛や卵あるいは昆虫など地上の動物はほとんど食べるので影響は大きいと考えられる。ペットとしてかなりの個体数が飼育されているので、これらの野外逸出防止がもっとも大切。					
⑤近似種との見分方	背中に2-3cmの棘を持つが、このような特徴を持つ在来種はいないので識別は容易。ハリネズミの中の識別は一般の人には困難。捕獲して同定を依頼すること。					
⑥被害状況	海外ではチドリ亜目の鳥類の補食など地上繁殖鳥類への影響が報告されている。					
⑦必要な防除対策	飼育個体の徹底的な管理による野外への逸出防止と発見個体の速やかな駆除。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ナミハリネズミ	学名	<i>E. europaeus</i>	目科名	食肉目ハリネズミ科
	カテゴリー(2019)	要注目種	タイプ(2019)	Ad	国リストカテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー(2005)	要注目種	タイプ(2005)	Ad	原産地	中央ヨーロッパ
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	飼育個体の逸出		
②分布範囲	全国	静岡県、神奈川県で定着				
	府内	定着確認は無い				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	鳥類の雛、卵、昆虫などを補食する。国内ではこのような生態的地位を占める種がいないので影響は大きいと考えられる。					
⑤近似種との見分方	背中に2-3cmの棘があるので識別は容易。マンシュウハリネズミ (<i>Erinaceus amurensis</i>) ヒトイロハリネズミ (<i>E. concolor</i>) なども定着している場所がある。ハリネズミの中の識別は一般の人には困難。捕獲して同定を依頼すること。					
⑥被害状況	海外ではチドリ亜目の鳥類を補食するなど地上繁殖の鳥類への影響が報告されている。					
⑦必要な防除対策	飼育個体の徹底的な管理による逸出防止。発見個体の速やかな除去。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005、生態系被害防止外来種リスト2015					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	シカ亜科	学名	<i>Axis, Cervus, Damus, Elepharus</i>	目科名	偶蹄目シカ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ad	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ad	原産地	-
	導入・侵入年代	不明	導入・侵入原因	飼育個体の逸出		
②分布範囲	全国	台湾シカやマリワナシカの定着が報告されているが定着状況は十分には判っていない。				
	府内	定着確認は無い				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input checked="" type="checkbox"/> 植生への影響、 <input type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input checked="" type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	種によりサイズなど様々であるが食性は類似している。すべて養鹿にともなう飼育個体であり、飼育個体の徹底的な管理による野外への逸出防止と発見個体の駆除が最優先。					
⑤近似種との見分方	Cervus albirostris, C.duvanseli, C.elephas, C.canadensis, C.eldi, C.timorensis, C.unicolor ならびに C.nipponなど固有亜種を除く外国産C.nippon					
⑥被害状況	すべての種が在来種のニホンシカと遺伝的交雑を起こすおそれが高い。また、アカシカとニホンシカは競合する。					
⑦必要な防除対策	飼育個体の徹底的な管理による逸出防止。発見個体の速やかな除去。					
⑧改訂の理由	-					
⑨参考文献	京都府レッドデータブック2002、外来種ハンドブック2002、日本の哺乳類2005					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 村上興正						